

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、自由民主党政策研究クラブ吉川の一般質問を始めさせていただきます。（全般モニター使用）

今回は給湯事業の拡大、学校給食委託の改善、選挙事務の簡素化、図書館の充実、保育所の民営化、以上、主なもの5点について質問を展開させていただきたいと思います。

まず初めに、11月16日、17日、18日の3日間で開催されました日本フェイスブック学会、これと同時並行に行われた「がばい武雄の物産祭り」ですね。これにおきましては、約6万人の方に御来場をいただいたということで、非常に盛会に終えたというふうに思っております。そしてまた、このフェイスブック学会におきましては、この武雄市議会の本会議場を初めて活用して、500名の皆さんがおいでいただいたということでありました。

その中で、私も若干時間をとって参加をさせていただいたわけでありましてけれども、そのときの一コマの中でリッツ・カールトンですね、日本でも超一流のホテルの支社長である高野登さんのお話がちょっとあったんですけれども、これはホスピタリティという話で、9つのドットを一つの例に出されて、いろいろあったんですけど、そのうちの一つなんですけど、9つのドットを全て通るように一筆書きで4辺で仕上げなさいという課題があったんですね。やはり、物事を考えていく、今、何が必要なのかといったことを考えていく必要性をこのときにいろいろと御講演をいただいたわけでありまして。

そしてまた、潜在的に表面に出てきていないニーズをどのように掘り起こすのかといったところに力を入れるべきだと、この武雄市は樋渡市長になって、この樋渡市長は全国の自治体の中でも、このニーズを掘り起こす力はナンバーワンだということで、これまでの市政運営について評価をいただいていたところでありまして。そしてまた、言われたのは、ぜひ枠を飛び出して仕事をしてくださいということを言われました。

この9つのドットの一つの答えをおっしゃったんですけれども、4辺でこういう形になりますね。こうすれば、全てのドットをカバーできるということで、ぜひこの既存の枠にとらわれずにやっていく必要があるということでありまして。

ニーズを掘り起こすといった部分は、大きく言って市長の役目ですね。どちらかという戦略をどう立てるか、その戦略に応じて、どのような戦術で臨んでいくのかといったことでもあります。どちらかという、この戦術はやはり市長プラス市の職員さん、また議会の議員であったり、市民の皆さんも入ってやっていく。こういったことが必要ではないかなというふうに思いますし、今回、5つほど質問をさせていただきますけれども、ぜひ、既存の枠に捉われずに考えていただいて、前向きな答弁をお願いしたいというふうに思っております。

まず、1点目の給湯事業でございますが、この給湯事業の状況についてお伺いをさせていただきますけれども、まず、この給湯事業については保養村、この一帯に泉源が3本ありまして、その中の今、2本を活用されているということで、そこからポンプアップした給湯を山頂の

200トンの給湯タンクにためて、そこから各宿泊施設あるいは観光施設のほうに供給をしていただいているということでもあります。

10年前には、16施設供給をされておりましたがけれども、これが現在では14施設ということで若干減っております。この給湯事業、金額ベースで使用料収入をトレンドで10年間見てみますと、平成15年3,766万円ということでピークであります。昨年、23年度は1,876万円ということで、大きく下がってきている。ピーク時からしますと、約50%減になっております。

このことについては、さきに行われた決算審査特別委員会、23年度ですね、これでもう使用料収入の増を図ることということで指摘をされたところでもありますけれども、まずもって、この給湯事業の使用料収入の50%減、大幅減に対してどのような認識を持っておられるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

おはようございます。給湯利用施設の利用減をどう認識しているかということでもありますけれども、議員おっしゃられるとおりに、給湯利用施設については平成24年11月現在で14施設に給湯しております。10年前の平成14年には16施設に給湯しておまして、10年間で2施設の減少となっております。しかし、収入料金で見ますと、平成15年度の3,766万円をピークに、昨年度は1,876万円と半減をしておまして、給湯使用料の要因としましては、長引く景気低迷による宿泊客や宴会等の減少、それから、温泉水の循環回数をふやすなどして燃料費の高騰に対する旅館やホテルの経費節約が要因と考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

認識は一緒ですね。その中で現在の給湯事業の会計を若干見ていきたいというふうに思いますけれども、これは平成23年度のデータでありますけれども、一般会計への繰り出しが1,200万円、そして、基金積み立てが200万円、保守点検が153万円、修繕費が123万円、清掃手数料が65万円ということになっております。これをもう少しわかりやすく、占有率で見ますと、一般会計への繰り出しが何と69%になっています。その次に多いのが基金積み立て11%、保守点検が9%、修繕費が7%、清掃手数料が4%というふうなことで、ランニングコストと言われるところがここですね、保守点検、修繕費、清掃手数料。これを合わせても全体の20%にすぎないと。残りの8割については一般会計への繰り出し。そして、繰り出しをいただいで、それを観光事業等に使われている。また、基金積み立てもしていただいているというふうなことで、この会計、非常に優秀な会計だというふうに思っております。

これも10年間のトレンドで見てもみますと、多いところでいきますと平成15年、基金積み立

てが1,659万円、一般会計繰り出しが1,500万円、次に多いのが19年、基金積み立てが2,200万円、一般会計繰り出しが1,100万円、そして、平成23年度、昨年ですけれども、基金積み立ては200万円、一般会計繰り出しが1,200万円というふうなことであります。年度で若干でこぼこありますけれども、10年間で捉まえてみますと、一般会計繰り出し1億円の繰り出しをしていただいている。それから、積立金については、平成23年度末で約1億円ございます。非常に武雄市の財政運営に大きく寄与をしている給湯事業であるというふうに認識をしておりますけれども、この点についてはいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

議員さんの資料等と同じであります。給湯会計につきましては平成15年度をピークに年々落ち込んでおまして、昨年度の歳入決算額は2,325万円というふうなことであります。内訳は給湯使用料1,876万円と、繰越金がそのうち449万円となっております。

歳出決算額につきましては約1,929万円で、内訳は施設維持管理費529万円、積立金200万円、一般会計繰出金1,200万円となっております。約390万円を利益剰余金として24年度に繰り越しておまして、適切な運営に努めております。一般会計繰入金につきましては、過去10年間で1億1,150万円となっております。給湯事業基金積立金の状況につきましては、平成24年11月末現在で基金残高9,778万円となっております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

認識は一緒だというふうに思っております。非常に武雄の財政に大きく寄与をしているのではないかなというふうに思っております。

そういう状況の中で、給湯事業、これはちょっとエリアマップでありますけれども、現在の利用施設を赤いドットで示しております。主に、この御船山周辺、それから、競輪場周辺、そして、保養村一帯、ここに点在をしております。そしてまた、遠くは福岡の万葉の湯さんのほうに毎日、大型のタンクローリー車で2回、供給をいただいているというふうな状況にあるわけでありまして、このマップからいっても、南西のほうに集中をしているんですね。先ほどのグラフからいきましても、給湯使用料が非常に大幅に下がってきているというふうな状況の中では、やはり、このエリアを見直していく必要があるのではないかなというふうに思っております。

考えられるものとしては、北部の宿泊施設、そしてまた、駅周辺ですね、それから、東部地区、こういったものがあるというふうに思っております。この東部地区については、老健施設等が建ち並んでおります。それから、駅については今、新幹線の竣工に向けて、新幹線

の工事がスタートしているというふうなこと、それから、北部の旅館街ですね。こういったところへのエリアをやはり広げていくべきではないかというふうに思っておりますけれども、この点について、今後どのような打ち手を打っていかれるのかですね。そろそろこういった結論を出していく時期にもう来ているというふうに思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

パネルをかえてほしいんですけれども、ちょっとごめんなさい、見にくくて恐縮なんですかね、（モニター使用）今、泉源の供給能力が1日1,000トンなんです。1日1,000トン出せます、ここから。ちょうどこちらですよ、ここから1,000トン出せるんですけれども、実際に今、出しているのは1日で172トンです。1000分の172しか出していないんです。でするので、大幅な供給能力があります。したがって、我々が考えたのは、今、この青の部分というのは既存の配管なんですけれども、今度、赤の点線部分を今後新しく布設しようと思っています。青が4,400メートルで拡張配管のところが約3,000メートルになります。このポイントは、まず、南側、今、どんどん住宅の供給圧力が強まっているこの南側ですので、マンションであるとか、一戸建てがこの拡張配管から給湯を受けるということを期待をする。

それと、最大のポイントは、この武雄温泉駅周辺ですので、ここでホテルであったりとか、足湯であったりとか、そういったことが可能となります。そして、さらには今の案では楼門前まで引っ張ってきておりますけれども、いずれにしても、ここは人口が集まるということからして、交流人口、定住人口を、我々はやっぱり最大の武器は温泉であります。ですので、この温泉を武器として皆さんに住んでもらう、あるいは、交流が膨らんでいくということで供給範囲を広げてまいりたいと思っております。この件については、布設して1年間ぐらいかかってまいりますので、その間にもいろんな議論をしてまいりたいと思いますし、新幹線を見据えて給湯範囲を広げるということは、武雄温泉新幹線プロジェクトからも御意見を承っておりますので、その要請にも応えたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

供給能力が1日1,000トンですね。今現在供給している実績が172トンということで、五、六倍の能力があるということですね。先ほどちょっと言いましたけれども、この東部の老健施設等もありますけれども、そういったところへの拡張ですね、これについてはちょっと答弁なかったんですけれども、条例によると、やはり宿泊施設とか、観光施設、そしてまた、市長が認めるものというふうになっておりますけれども、ぜひこういった老健施設等へもや

る方法を考えていくべきではないかなというふうに思っておりますけれども、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

賛成です。その一方で考えなきゃいけないのは、これはどれだけ量を使ったださるかということなんですよね。ですので、何で以前、給湯量があんなに多かったかということ、もともとかんぼの宿等の、いわば公共施設というのがやっぱり多く使っていたんですよ。これがもう民営化する、あるいは民間移譲になると、やっぱりそこは節約ということになりますので、この量をどれだけ使ったださるかということで、これは個別にちょっと交渉したいと思います、この部分は。

ですので、基本的には、本当に人生頑張った方々がそういった施設で温泉を、武雄温泉を使ったださるというのは私は大賛成なんですけど、この給湯会計という一方の、我々もこれを経営しなきゃいけないということがありますので、そこは調整の余地はあろうかと、全体的に私は賛成です。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ぜひ前向きに協議をしていただきたいというふうに思っております。

それでは、一番最初に聞く予定にしておりましたけれども、遅くなりましたけれども、物産祭り等でも話題になっておりますし、このフェイスブック学会でも話題になっておりました武雄の「FUN&BUY良品」ですね。これはインターネットを通じて武雄の特産品を全国に売り込むというふうなことでやられておるわけでありましてけれども、今、全国に展開をされて話題になっております。この進行状況等についてお知らせいただければと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、このF&B良品なんですけれども、12月7日から8日にオープンをいたしまして、まず、そのアクセス数が土、日、月で大体5万5,000件。5万5,000件のアクセス数で売り上げ高が、これは武雄市、南砺市、陸前高田市、那須町、薩摩川内、大刀洗、燕三条なんですけれども、合わせて土、日、ここが土、日で恐縮なんですけど、始まったばかりでもう21万円の売り上げ、2日間で21万円、1日半ですね、1日半で21万円の売り上げがあります。

ですので、今後なんですけれども、今、最近出発した南砺市を含めて7自治体ですので、

これを3年間で目標は200自治体まで広げていくということです。ですので、Amazon、楽天に並ぶ自治体が行う、やっぱり通販ということで市場を獲得していきたいと思っております。

このメリットは、我々は自治体ですからもうける必要がありません。ですので、大手の通販会社と違って、出店料は取らない。ですので、ぜひ、これはいろんな自治体の皆さんたち、特に議員さんたちがこの市議会を注目されていますので、ぜひ、いろんな自治体の皆さんたちに入っていただきたいということです。

今、考えておりますのは、これ、今までフェイスブックしかやっていない人しか買えなかったのが、12月8日から一般の人も買えるようになりました。一般の人も買えるようになった。それと、Amazon並みにも使いやすくなっています。

そして、私がほとんど冗談で私のブログにアジアに進出したいということを書いたら、シンガポール側から話があって、今度シンガポールにも進出することにします。2月に商談会に私自身が、また外遊とか言われそうですけどね、シンガポールに参ります。シンガポールに参って、シンガポール政府、あるいはシンガポールの皆さん方と直接交渉をして、そこには、できれば、これは武雄だけでやっても意味ないんですね。ですので、F&B良品の入れていただいた首長さん、そしてやっぱり、武雄が栄えるには周辺が栄えないとやっぱりだめです。ですので、伊万里市、唐津市、嬉野市、鹿島市、周辺の首長さんたちにも呼びかけてまいりたいと思っています。ですので、武雄だけが栄えてもだめ、やっぱり周辺が、みんな佐賀県が栄えてから、なおさら武雄もちゃんと栄えるというふうに利他の精神を持ってやってまいりたいと思っています。

ですので、このF&B良品については、もう予想以上で、うちの職員の古賀敬弘初め、よく頑張っていますので、そういった意味で、この職員の頑張りに深く感謝をしたいというふうにも思っております。

長くなりましたけれども、頑張ってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

このFUN&BUY良品については、やはり武雄市民の所得の向上にもつながるものであります。ぜひ、このネットを通じて武雄の特産品を全国に、また世界に広げていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

それでは、次に、学校給食の民間委託の改善について質問をさせていただきたいというふうに思います。

これまで学校給食の民間委託が進められてきたんですね。非常に経費削減につながってきているというふうに思っております。しかし、安心・安全あるいは労働条件の低下、こうい

ったものに最近つながってきていないかといったところが非常に危惧をされてきております。

そこでまず、この民間委託の取り組みの状況ですね。平成8年から始まったというふうに思っておりますけれども、この経過、成果等についてまずお示しをいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

学校給食の民間委託につきましては、ただいまおっしゃいましたとおり、旧武雄市におきましては、平成8年から随時行っております、北方、山内の両学校給食センターにつきましても平成22年度から民間委託を行っているということでございます。

民間委託の内容ですけれども、これは調理業務ということで調理業務に限ってお願いをしているというところでございます、旧武雄市の数字で申しわけないんですけれども、旧武雄市、11校、学校がございまして、直営でやった場合は2億円を超える数字になっているというふうに思っておりますけれども、現在、旧武雄市11校では委託料が8,100万円ということになっておりますので、経費の削減効果につきましては1億3,000万円程度ということになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

経費削減として1億3,000万円ほどの効果を上げていただいているということですね。

そういう状況の中で、この安心・安全あるいは労働条件の低下というふうなところでちょっと見ていきたいんですけれども、これはある学校の給食の状況でありますけれども、直営で以前されていたときの経費、経費といいますか、労務費が4,340万円だったんですね。民間委託になって、そのときの見積もり積算額が、これは経費含めてでありますけれども、2,236万円ということでありまして。それに対する委託実績が幾らになっているのかといいますと、経費込みで1,575万円なんですね。これからいきますと、直営費で見ていきますと64%減額になっている。それから、もう1つ、設計額から見ても30%の減になっているんですね。これは、コストダウンを図られるのはいいんですけれども、余りにも行き過ぎた数字になっていないかということで、指摘をさせていただきたいというふうに思います。

このように、設計値があって、それより30%減額するということになる、どうしても、この労務費あるいは経費にかかってくるんですね。特に、この学校給食という子どもたちの食の安心・安全といった部分を守っていくためには、やはり、こういったところはある程度歯どめをかけていかないかんというふうに思っております。

どういったところに支障が出てくるかという、例えば今、流行しているノロウィルスで

すね、嘔吐下痢、こういった感染症、それから、これから恐らくまた流行するであろうインフルエンザですね、こういったものが広がってきたときに、例えば、そこに従事されている皆さんがかかられたり、あるいは家族の皆さんがかかられたりしたときに、そういう余裕がなければローテーションする人材もないというふうなことになる、そういった方たちが現場に入って調理をしたりとかいったことにもなりかねない。そしてまた、経費の面からいくと、例えば、マスクとか手袋とか、そういった経費も交換の頻度をおくらせていく、そういったことにもなりかねないんですね。ですから、ここについては、余りにも私自身行き過ぎているというふうに思っておりますけれども、ここの認識について学校教育としてどのように認識されているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

民間に委託をいたしましても、安全面、健康面、こういったものにつきましては十分配慮をしていただくということでやっておるわけですが、議員御指摘のとおり、私どもの設計額に対しまして、指名競争入札を行った結果、一番安い業者の方と契約するということになりますので、実際には設計額に比べまして30%程度減額をして契約できていると、その結果が先ほど申し上げましたような数字につながっているということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘ごもっとも、これは行き過ぎですね。これね、あんまりやると——私はきのう、血の通う行革というのを言いました。これ削減は削減で、これは非常にありがたいことでもあるんだけど、これ削減やると副作用がやっぱり出てくるのが今回の事例で、これは以前、古川盛義議員さんも同じ流れで御質問されたと思うんですよね。ですので、これね、見直します。一番困るのは、これは大人の世界だったらまだいいですよ、まだいい。しかし、これね、ころころ変わることによって、やっぱりせつかくノウハウ、入札するたびにこれは変わる可能性があるわけですよ。そうなってくると、今まで培ったノウハウとかが、そこで一旦まずチャラになってゼロになるわけですよ。ですので、ちょっとね、これは見直したいと思っています。

もちろん、これによって、もう決め打ちしての随契とかが、そんなの考えていませんが、やっぱりここはちょっと行き過ぎなのかなということは古川盛義議員さんの以前の御指摘、あと吉川議員さんの指摘でそのように痛感をしている次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

見直しをしていただくということでおっしゃっていただきましたけれども、ちょっと中身を確認させていただきませうけれども、現在の市内の学校給食の調理の状況について教えていただきたいんですけども、まず、1日当たりの給食数が幾らなのか、従事者の方が幾らなのかですね。それから、有資格者、それから賃金が幾らなのか、あるいはそのほかの労働条件の実態をどのように把握をなされているのか、学校担当にお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、調理の食数ですけども、4,258食になっております。それから、市内の16校での従業員の方の数ですけども、これは77名ということでありませう。

それから、そのうちに調理師免許を持っておられる有資格者につきましては42名ということで、あと安全面、衛生管理、こういったものにつきましては、私ども仕様書の中でうたっておりますので、それを守っていただくということでやっておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

4,000食以上の給食をつくっていただいているということでありませうので、ぜひよろしくお願いをしたいというふうに思いますし、その中で、ちょっと飛ばしますけど、実情としては、これもある学校の実情でありますけれども、労務費が年間で1,228万円なんですね。給食従事者数が11名、内訳を見ても責任者1人、副責任者1人、常時雇用2人、臨時雇用5人、運転手1人、運転助手1人という構成でやっております。

この学校の分が1日740食、年間190日労働されて、清掃日が20日ということで非常にこの数字を見ていただいても、740食を11名の方でやられている過酷な状況にあります。そして、労務費を見ても、単純に人数で割っても年間所得は100万円程度なんですね。決して高いとは言えないというふうに思っております。ここの臨時雇用の方とか、常時雇用の方の時給あたりを見ても、大体600円後半から常時雇用になった人でも700円ぐらいというふうなことで非常に低い、佐賀県の最低賃金が653円ですか、これは10月に改定をなされておりますけれども、最低賃金並みで労働をされておるわけですね。直営でやられていたときのパートさんの時給を見ても、900円以上支払われているんですね。全くこの民間委託になって市民の所得といったものは逆行している。その点も踏まえて、ぜひ改善をしていただきたいというふうに思っております。

これは先ほどおっしゃっていただきましたね。現在、指名競争入札をされているというこ

とでありますけれども、今後の民間委託のあり方としてでありますけれども、やはり、この競争入札ですね、これはやはり、低価格競争に走り過ぎる傾向があるんですね。学校給食という性質とか、目的からはやはり、このコストだけで競争させるというやり方は、やはりなじまないというふうに思っております。

そういうことで、あと考えられるのは随意契約ね、これ見積もりとか交渉で決めるやり方、総合評価制度、品質とか労働環境、あるいは安全衛生、価格も含めて総合的に判断するやり方。これは佐賀市あたりが導入をされているようでありますけれども、これには学校長さんとか、そういう関係者の皆さんに入っていていただいて、3年間の実績等も踏まえて評価をするやり方であります。ぜひ、このコストだけの競争入札ではなくて、随意契約もしくは総合評価制度にぜひ移行をしていただきたいというふうに思っております。ぜひ検討の課題として考えていただきたいというふうに思います。

それともう1点、ぜひ抑えていただきたいのは、コストにも最低制限価格をぜひ設けていただきたい。一般の公共事業、例えば土木とか、建築、これも県の基準85%という最低制限がありますよね。それに倣って、武雄市も最低制限を設けてあります。ぜひ、この学校給食といったものは労務費と経費しかないんですね。ですから、この価格が今、底なしになってダンピング状態なんですよ。ぜひ、この底の歯どめをかけていただきたい。

私は、もう設計値があつたら、設計値でもいいと思っておりますよ。ただ、それは余りですからね、やはり90%とか、95%とか、そういうレベルでの競争をさせるといったことが大事じゃないかなというふうに思いますし、もう1点は、委託をする条件として時給の最低条件をぜひ出していただきたい。以前は900円以上払っていたんですね。福岡県あたりでは、こういうものを設けてありますし、近いところでも江北町は時給800円以上という条件を出して民間と契約をされているというふうに伺っております。

ぜひ、こういったところの歯どめをきかせていただきたいというふうに思っておりますけれども、最後に答弁できますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、総合評価制度にするか、随契にするかは、ちょっとこちらのほうで考えさせてください。これはどっちも一長一短あるんですよ。ですので、それをちょっと現場をもう一回教育委員会とともに見た上で、どちらが武雄市の学校給食の行政にとっていいのかということについては、それは判断は両方させていただきたい。お約束するのは、最低制限価格設定、最低時給条件設定はやります。これをしないと、やっぱり底抜けになっちゃうんですよ。ですので、これが、結局これが子どもたちに響いてくるということになりますので、これについては設定はやります。その中で、一方でやっぱりなるべくこれと、これはちょっとまだ詰

め切れていませんけれども、民間の委託契約ですよね。一応期間もやっぱりちょっと考える必要があるだろうということも思っています。期間も考える必要がある。そうしないと、先ほど答弁したように、これがころころころころ変わると、結局、ノウハウの蓄積ができないということにもなりますので、この部分についても柔軟にちょっと考えてまいりたいと思います。

ただ、これで市民の不信感とか、不公平感が出ないように、そこはきちんとガラス張りにする必要があるだろうと思っておりますので、今度、いつ変わるのかな、どこか変わるのかな。（「毎年」と呼ぶ者あり）毎年変わるのか。

ですので、ちょっと最速で今度変わるところから、新しい総合評価制度になるのか、ちょっと随契になるのか考えますけれども、それを適用していきたい。多分、4月以降になると思いますかね。それまでの間は、ちょっと間に合わないかなとは思いますが、それはきちんと詰めた上でやっていきたいと、これについては議会にきちんとまた報告をさせていただきたい、相談をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。4,300人の将来を担う子どもたちの食の安心・安全ということと、もう1つは額に汗して働く労働者の皆さんの所得を下げない、上げていく取り組みをぜひしていただきたいというふうに思っております。

それでは、次の質問に移りたいと思っております。

次は、選挙事務の効率化というふうなことで、これは1年前の9月議会ですか、御提案をさせていただいておりますけれども、投票管理のIT化をぜひ進めていただきたいということで申しておりました。

ちょうど今、衆議院選挙の真っただ中で、期日前投票が行われております。そしてまた、16日の日にはいよいよ当日投票ということであるわけでありましてけれども、ぜひ、この投票所に各コンピューターを持ち込んで、ネットワーク回線によってつなぐことによって一元管理をしていただきたい。投票所の受け付けではバーコード処理によって一括受け付けをして、そうすることによって待ち時間の短縮あるいは二重投票ミスの防止ですね、こういったところに歯どめをかける。そしてまた、夜間作業で今、手作業でやっていただいております統計処理、期日前投票があつているので毎晩、この統計処理をやっていただいておりますけれども、そういったものの大幅な短縮につながるものでありますので、ぜひやっていただきたいというふうに思っております。検討していくというふうなことでありましたけれども、検討状況はどのようになっておるのか、それから、いつからやれるのか、答弁を求めたいと思

ます。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

選挙のシステムにつきましては、住民基本台帳をもとにした選挙人名簿を使用しております。このことによりまして、杵藤地区広域市町村圏組合の電算センターのほうと協議をいたしまして、また、先進地視察等も行いまして、非常にこのシステム導入につきましては効果があるという判断をいたしました。そのことによりまして、選挙管理委員会のほうに報告、承認をもらっているところでございます。

このことによりまして、平成25年7月、任期を迎える参議院議員の通常選挙から期日前投票システムにつきましては導入を考えていきたいというふうに思っております。

それと、導入効果につきましては、今、そのモニターのほうに3つほど出ております。まさに、その3つ、効果があるというふうに考えております。

まず1つ目は、有権者の待ち時間の短縮ということで、これにつきましてはバーコードを記載した表、入場券を読むことによりまして、受け付け、名簿対照が同時に処理できて、より迅速な対応が可能になるということです。

2つ目につきましては、二重投票の防止でございます。これにつきましては、期日前投票所をオンライン回線で結びまして、名簿対照が同時に処理ができるということで二重投票の防止という形が可能というふうに考えております。

それと、3つ目ですけれども、統計処理時間の短縮、これにつきましては期日前投票後に処理します投票録、各種の統計、これにつきましては、全て自動化されますので、事務従事者の負担が軽減されるという形で考えております。

このようなことで、システムの導入を予定しています。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

期日前投票については、来年の7月の参議院選挙から導入していただくということでありがとうございます。ぜひ、当日投票も、こういったIT化になるように、また、踏み込んで対応をお願いしたいというふうに思っております。

それと、2点目でありますけれども、選挙事務の効率化ということで、はがきの件ですね。これは現在の投票入場券でありますけれども、各有権者にそれぞれ送られてきますけれども、この表面には世帯番号とか名簿のページ数、行数、それから投票日、投票時間、投票所と書

いてあります。裏には、期日前投票のお知らせ等があるわけでありましてけれども、例えば、一つの世帯に3名の有権者がおられれば、はがきが3枚来るというふうな今の状況でありますけれども、これについても、めくり式のはがきにすることによって、はがきが1枚で済むというふうな形になります。こうすることによって、コストが半減できるということで、このことについてもお願いをしておりましたけれども、この検討状況について答弁をいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

現行の投票所の入場券につきましては、有権者1人に対して1枚、単記式という形で今、送付を行っているところです。

今、御説明がありましたとおり、このはがきを有権者4人までを世帯単位で送付する、いわゆる連記式という形で変更することによりまして、選挙経費の節減、事務の軽減の効果があるというふうに考えております。

このようなことにより、システムと同様、選挙管理委員会のほうに報告、承認をいただいているところでございます。平成25年7月、システムと同様、任期満了を迎える参議院議員の通常選挙より変更をする予定でございます。

それと、入场券の効果につきましては、武雄市の有権者数約4万1,000人を連記式のはがきで試算いたしますと、選挙1回当たり郵送料として約96万円の経費の削減ができるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。これも7月から実用化していくということで、選挙管理委員会の皆さんの御努力に感謝を申し上げたいというふうに思います。

それと今、ちょうど衆議院選挙の真ただ中であるわけでありましてけれども、ぜひ、選挙の広報活動をもっと積極的にやってほしいなというふうに思っております。投票日等になると、街宣車を回して選挙の呼びかけをされますけれども、それだけじゃなくて、今、武雄市はこのフェイスブックというツールを使った先進自治体でもあるわけでありまして、ぜひ、毎日、選管のほうから武雄市のフェイスブックページを使って、期日前投票の状況とか、選挙に行こうとか、あるいは若い人たちが行っているところの状況等もお知らせをして、たくさんの人に行っていただくような仕掛けをぜひしていただきたいというふうに思っております。

す。

実は、昨日ちょうどフェイスブックを見ていましたら、ちょうど武雄市役所の玄関のところで、看板の前で若い女性、初めて投票権を手にしたということで、どうやったらいいのかわからないということで期日前投票について、市役所に問い合わせをしたら親切に答えてくれたと。行ったら、いろいろ線も引いてあって、わかりやすくしてあったということで、フェイスブックの中で同じ同世代の大学生の皆さんに、ぜひ選挙に行こうよと、期日前投票があつているよというふうなことでPRをされていったんで、それも私、シェアをさせていただいたんですよ。そういうことをすることによって、もっともっと今の若い方たちの投票率低下に歯どめがかかるというふうに思っております。

ぜひ、そういったところの啓蒙活動を率先してやるべきだというふうに思っていますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えします。

選挙広報につきましては、有権者へ十分な周知を図るために、いろいろな広報手段、こういう媒体を利用いたしまして広報を行っております。

方法としましては、選挙広報と武雄市の選挙広報誌の、（発言する者あり）はい。

武雄市役所のホームのフェイスブックによる広報につきましては、12月4日の公示日にまず情報掲載を行っております。その後は、掲載を特別行っておりませんが、今後は先ほど議員さんが言われたとおり、投票の仕方とか、それとか今、期日前投票があつております。その投票状況などを掲載することによりまして、投票を促す手段となりますので、積極的に広報を行っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そもそも問題なのは、公職選挙法なんです。これね、本当にもう変えなきゃだめですね。橋下大阪市長さんは、もう本当にわかってやられていますし、やっぱり公示の後に、その候補者も我々も一切、名前は書いちゃいけないとか、党派を書いちゃいけないというのは、これはもう倒錯の世界ですよ。ですので、文書とかの配付は公示後、だめじゃないですか。しかし、例えば、名前はあえて挙げませんが、いろんな公党、各党も、もう出しているじゃないですか、ホームページとかに。すごいところになると、携帯のQRコードで読めるようになっているじゃないですか。もう完全に公職選挙法、もうあれ明治の文書とか、明治

のときの言葉が今、全くもうそぐってないんですよ。ですので、これは選管ももう奥歯に物の挟まるようにしか言い方がないのは、このばかな公職選挙法があるからなんですよ。

ですので、これ変えるように、ぜひ市議会で決議してください。そうしないとね、お金持ちばっかりの選挙運動になっちゃいますよ、本当に、お金持ちばっかりの。ですので、やっぱり候補者もそうだし、我々もそうだし、やっぱり公示後がもうポイントだと思うんです、公示の後もポイントだと思うので、ぜひ、これは市議会に、もう全国で一番最初に先駆けて、うちはIT特別委員会もありますので、ぜひよろしくお願ひしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

していただくということであります。このフェイスブックとか、ツイッターというツールはお金がかからないんですよ。作業時間はかかりますけれども、経費はかかりませんので、どんどん活用をやっていただきたいというふうに思っております。

それでは、次の質問に移ります。

図書館の充実というふうなことで質問をさせていただきます。9月議会までに、CCCとの指定管理者の協定がなされて、改修予算もつけられて今、工事に入っております。来年の4月にリニューアルオープンを迎えるわけでありまして、非常に楽しみにしております。

その中で、一つ課題として残っているのが、きのうも出てきておりましたけれども、蘭学館があるわけでありまして、蘭学館の今後のあり方について、やはり考えていく必要があるというふうに思っております。まず、この蘭学館の今の状況を、これまでの状況をちょっとお伺いをいたしますけれども、入館者の利用状況等がどのように把握をされているのか、担当部局にお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

蘭学館の入館者の状況でございますけれども、平成12年10月にオープンをいたしまして、当時は一定の入場者がいらっしゃったということでありまして、最近は常設展示ということもございまして、なかなか入場者は激減をしているというふうに感じております。ただし、正確な数字につきましては、カウンターを設けているわけではございませんので、1日何名とか、何月が何人だったということにつきましては、把握をいたしていないというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

蘭学館の入館者もやっぱりわからないというふうなレベルなんですね。そういう状況の中で、私は10月に入館者のサンプリングをさせていただきました。3日間ほど、いつもは行けませんので、10回ほどちょっと行かせていただいたんですけども、入館者10回行ってゼロであります。

すなわち、ここの蘭学館の稼働率ゼロとまでは言いませんけれども、非常に低過ぎる。もう数%程度しかないというふうに思うわけですね。ぜひ、やはり、この12年間、私が行く限りで、12年前オープンしたときと今とほとんど中身変わっていないですよ。やはり、そういったところの見せ方とかいったものも、もっともっとリニューアルをかけていかないと、やはり、入館者はふえないですよ。

そういったところで、ぜひ、この見直しをかけていく必要があるというふうに思っております。まず、ちょっと現状について伺いたしますけれども、この蘭学館のリニューアル等を12年間でやられたのかどうか、伺います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

蘭学館の展示につきましては基本、常設展示ということでございますので、大幅な入れかえについてはあっておりません。ただ、やっておりますのが、蘭学館の入り口から入って右側に壁面ですね、ミニ企画展のコーナーがございます。このコーナーを年に2回ないし、多いときで5回ぐらい展示会をやっているということでございますけれども、大部分は変わっていないというのが現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ほとんど変わっていないということですね。この武雄の蘭学については、この資料、非常に大切なものだというふうに思っております。これも多く市民に知らせて活用を図るべきだということは十分に認識をしておるわけでありませう。

そういった意味から、やはりきのうも話があっておりましたね。図書館については改修予算がついているけど、蘭学館については予算がついていないと、確かにそうなんですね。ですから、ぜひ、この蘭学についてもコンセプトをやはり明らかにしてほしいんですよ。図書館については、CCCのコンセプトがはっきり明確になりましたので、それに対して予算づけをしたんですよ。この蘭学館についても、じゃあ、これからどのような形に持っていくのかですね、そのコンセプトを明らかにして、ぜひ、私は予算つけていいと思うんですよ。予算つけて、もっともっと市民に親しまれる蘭学にしていくべきだというふうに思っ

おります。

そういったことで、今後この蘭学館、大幅にやはりハード面、ソフト面含めて見直しをかけていく時期にもう来ていると思いますので、その辺の打ち手、どのようにされるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとモニターを変換してほしいんですけども、（モニター使用）答弁に入ります前に、古賀部長もかわいそうなんです。私も何回かこれリニューアルすべきだということを蘭学館は何度も言ってきました。市長に就任させていただいた以降、私もこの重要性というのはよくわかりますので、それは何度も言ったんですけど、まず、僕が最初に入ったとき愕然としたのは、蘭学館に入ったときにもう真っ黒な壁があるじゃないですか、あんなところ入ろうと思わないですよ、そもそも論。

そして、電子掲示板でもう張ってあるじゃないですか、張ってあるのにリニューアルなんて基本的には無理なんです。だから、それは企画展示室のあのすばらしさを考えた場合に、あそこは自由にできるじゃないですか。例えば、文化財も展示ができる、あるいはターナーさんの、あれまでやりましたからね。ですので、できるんですけど、そもそもあの蘭学館は、設計のミスです、失敗です。うん。何であんなのに予算をつけたのかなというふうに思うんですよ。だから、吉川議員が話されたように、実際、来訪者はゼロですもんね。

私も自分でサンプリングやったことがあります。そのときは土日辛うじて、子どもたちが中に入って何をしているかという、休憩していました。だから、そうはあっちゃいけない。その結果がこのアンケートなんです。やっぱり蘭学館、あそこの中の蘭学館によく行かれますかというアンケートで、余り行かないと、行ったことがないを合わせると65%になっちゃうわけですよ。ですので、今後どうしようかということを考えたときに、我々とすれば、最終的にはこういう蘭学館をつくっていきたいと思っています。

これは、今ある既存のもので我々がこれいいなと思っているものなんですけれども、明るい光を入れながら、そして、スペースはきっちり調光も考えながらやっていくと、こういう感じになればいいなということを思っていて、じゃあ、これをどこにつくるかといったのは、以前私が申し上げたとおり、この庁舎の今、検討しております、3パターンありますよね。今の庁舎に耐震設計を施す、あるいは、今の庁舎にもう一回建て直す、そしてまた、どこかに場所を見つけて、そこで建て直すという、この3パターンがあって、その中のいずれでも蘭学館機能というのをきちんと入れたものを私はつくりたいと思っています。ですので、今のままだと、どんなにリニューアルしても、やっぱりだめなんです。

ですので、じゃ今の蘭学館をどういうふうにするかという、我々はここをこういうふう

に使いたい。CD、DVDを、これはもう図書館の延長として、これは歴史的財産でありますので、これを使って、ここにいろんな人たちを呼び込むと。こういうCDとかDVDを置く分には、あの蘭学館というのは非常に適しているんですね。防音効果もある、あるいは入ったときに、ここは音楽を仮に流したにしても外には漏れないんですよ。ですので、図書館に行く層と、こちらの映像あるいは音楽の層を分けて考えられるということでもあります。図書館も本だけじゃありません。やっぱり我々とすれば、すぐれた映像であるとか、すぐれた音楽も一緒に出していく、これも文化であります。これをCCCのお力をかりて、CCCの予算でここを改修して、ここにもお越しいただくということで、結果的に図書館の魅力が、総合図書館としての魅力が私は増すというふうに理解をしております。

入ったときの感じはこういう感じですね。奥には映像を流します。できれば、ここで映写会でもできればいいなということも思っています。

じゃあ、今の蘭学館に置いているものをどうするかということについては、横の企画展示室を、ここを常設展にします、常設の置場。そして、過渡的な措置として、先ほど申し上げたように、新しい今の時代に合う蘭学館の前に、これは時間がかかります。時間がかかりますので、その間はそれをほかすのではなくて、今の蘭学館、企画展示室に、今、蘭学館に置いてある財産、市民的な財産なるものをこちらのほうに置いて、例えば特別展、特別展というのは、また別個設けるということにして、常設をこっちに置きたいというふうに思います。ですので、明るいところで、きちんと今まであった資料を置くと、そして、あんな暗いところでなんか見れないですよ。ですので、ここちょっと明かりを明るくして——ただし、ここで考えなきゃいけないのは、やっぱり展示と保存というのはきちんと分けて考える必要があるんですよ。鍋島の古文書、非常に重要です。重要ですので、これはしっかり保存をすることは絶対に大事です。これはちゃんとやります。

それと、もう1つ大事なものは、展示です、展示。これは先ほど繰り返し申し上げますけれども、これは展示に切れ目があっちゃいけませんので、企画展示室できちんと展示をさせていただきます。一方で、先ほど申し上げたとおり、今度、庁舎の今、検討を議会の皆さん、そして、市民の皆さん方にもしていただいていますけれども、その中に新蘭学館をつくりたいと、そのエリアの中につくりたいということで、5年、10年、今の子どもたちが大人になったときに、ああ武雄市にはこんな財産があるんだと、文化的な資産があるんだということを含めて、我々大人世代はここでやっぱり考える必要があるだろうと思っています。

ですので、私は今までの武雄市の文化、歴史行政を否定するつもりは全くありません。全くない。今まで大事に先人の皆さんたちが育まれたもの、特に石井元市長さんは、本当にこれ、私も何度も話ししましたけれども、生前本当に話されていました。その流れをくんで、我々としては、より多くの皆さんたちに、もっと親しんでいただくということにすれば、そこはやっぱり今の時代の観点を僕は取り入れるべきだと思っていますので、私も武雄の文化、

歴史大好きだし、今、着任当時から、もう石井さんから言われていますので学んでいます。これは絶対に後世に保存をしなければいけないということ。それと、これをもっと今以上に広く見せなければいけないという観点から、これは教育委員会と協議をして、今の段階にしていきたいというように思っております。

これはもとより、市民的な議論が必要だと思っておりますので、ぜひ、また御意見を承ればありがたいと、このように思っております。この部分の予算については、先ほど吉川議員もおっしゃったとおり、これはお認めいただきたいと思っております。企画展示室も場合によってはお金が入ることにもなりますので、これはぜひお認めいただきたいと思っておりますし、長くなりましたけれども、今のままのリニューアルよりは、こちらの過渡期的な措置として企画展示室を使って、将来的には市役所の中に入れるというふうにすると、それと保存を、アーカイブをしっかりするというのを我々としては今、考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

大体のコンセプトがわかってきました。この武雄の蘭学、非常に重要なものでありますので、図書館と同じレベルで考えていただいて、今後、武雄の貴重な財産として活用をしていただきたいというふうに思っております。

先日、沖縄市のほうに行ったんですけど、あそこの庁舎1階のところは市民ホールになっているんですけど、非常に広いんですね。そこの市民ホールにいろんな特産とか、こういった歴史的なものを置いてありました。たくさんの方がそこに来られますので、非常に目にとまるといったことからすれば、市民ホール等の横に、そういうところを設置する。そういうやり方も非常にいいのではないかなというふうに思っております。ぜひ、図書館とあわせて、また蘭学も見直しをしていただきますようお願いをしておきたいというふうに思います。

それでは、最後になりますけれども、保育所の民営化でございます。保育所の民営化については、平成11年ぐらいから構想を立てられて、いろいろ協議がなされ、ようやく平成17年ぐらいに、この民営化がスタートしたのではないかなというふうに思っておりますけれども、これまでの民営化の経過と、それから、成果はどのように上がっているのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

保育所の民営化の経過ということでございますけれども、公立保育所の役割及び管理運営に関する計画に基づきまして、公立保育所6園のうち5園を民営化してまいりました。平成

17年度には、東川登保育所と西川登保育所を民営化いたしまして、平成19年度に統合をされまして、川登保育園となっております。また、平成20年度には若木保育所を民営化いたしまして、現在の若木保育園となっております。また、同じく20年度に朝日保育所と朝日第二保育所を民営化いたしております。そして、平成21年度に統合されまして、現在のあさひ保育園となっております。そして、残る公立保育所の1園であります武雄保育所につきましては、武雄保育所の役割及び管理運営に関する計画書を策定したところでございます。そして、26年度に民営化をするという予定にしております。

また、その効果と申しますか、成果ということでもありますけれども、その中で、経費削減の効果といたしましては、民営化いたしました5園を全部合わせますと、単年度で7,000万円となります。また、武雄保育所、今回の武雄保育所を民営化いたしますと、その削減効果といたしまして4,600万円が加わるということになりまして、単年度では1億1,600万円の削減効果、経費の効果が出てまいります。また、これを17年度からの累積で積み上げてみますと約2億8,000万円の削減効果となります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

今、これまでの経過と成果について答弁をいただきましたけれども、約7,000万円の効果が出ていると、6カ園中5カ園を民営化した段階でですね。今度、武雄保育所を26年から民営化すれば、1億1,000万円ですか、効果が上がるというふうなことでありました。

今後の計画について、先ほど26年民営化というふうなことで運用をスタートするというものでありましたけれども、もうちょっと詳細に説明できればお伺いをしたいと思いますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

今後のスケジュールということになるかと思っておりますけれども、今後の武雄保育所の民営化のスケジュールといたしましては、平成25年2月から3月に運営事業者の公募をいたしたいというふうに思っております。

そして、4月から5月に検討委員会を設置いたしまして、運営事業者の決定をしてまいり、そして、26年4月から運営事業者による事業開始措置というふうに考えております。そして、さらにですけれども、平成27年度中には現在の園舎が老朽化しておりますので、園舎の新築移転というふうなスケジュールで進めていく予定としております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

わかりました。その中で、27年に新築移転をするということでもありますけれども、武雄保育所に通われる父兄さんからもお話があったのは、やはりこの交通アクセスをもっとよくしてほしいと、新築移転をするときにはですね。やはり、この武雄のまちのポテンシャルの一番高いところに持っていくべきだというふうに思うんですね。

この写真は、あさひ保育園でありますけれども、拡幅された市道、そして、拡幅された歩道があって、その先には駐車場がある、駐車場の奥に園舎があるというふうなことで、この保育園の送迎についても、ほとんどの方がもう自動車でお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが送迎をされている実態があります。ですから、そういったものも踏まえて、このポテンシャルの高いところに、そしてまた、気候とか季節とか、そういったものに左右されないようなところですね。例えば、雨季につかってしまうとか、冬場になれば凍結するとか、あるいは雪が積もって行けないとか、そういうところではなくて、武雄のまちの一番ポテンシャルの高いところに移転をして、新しくつくって運営をしていくべきだというふうに思いますけれども、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

議員さん、今、御指摘いただきましたように、現在の武雄保育所は非常に進入路が狭くて、一方通行ということもありまして、保護者の皆さんに大変御不便をおかけしております。

今後、民営化を進めるに当たりまして、新築移転を予定しているわけですがけれども、本当に、その交通の利便性のよい場所に開設をしたいというふうに考えております。

校区内につきましては、武雄小学校ということもございます。本当にポテンシャルの高いところということで、今からそれを探していくこととなります。どうぞ御協力もお願いしたいというふうに思うところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

以上で一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で12番吉川議員の質問を終了させていただきます。